

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
甲府市	中道上九一色地域 (古関町本郷)	令和4年3月31日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	4.92ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	4.7ha
③地区内における80才以上の農業者の耕作面積の合計	1.8ha
うち後継者が居ない農業者の耕作面積の合計	0.4ha
④地区内において今後耕作できなくなる可能性のある耕作面積の合計	1.5ha
⑤地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0ha
(備考)	

2 対象地区の課題

<p>(1) 農業者の高齢化による離農や規模縮小、後継者の不在により、農地の出し手は増加しているが、農地の受け手が少ないため、耕作放棄地が増加傾向にある。さらに、鳥獣被害の多発が生産意欲の低下を招いており、5年後、10年後の地域農業の展望が見えない。</p>
<p>(2) 地域内だけでは農地の受け手が不足していることから、地域外から、企業や新規就農者などの新たな農地の受け手を確保する必要がある。</p>
<p>(3) 小規模で、急傾斜地にあるなど、耕作条件が不利な農地が多く、収益率の低下を招いている。</p>
<p>(4) 小規模農地の所有者が多く、農地集積の妨げとなっている。</p>

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

(1) 地域全体で農地の受け手が不足しているため、地域外から企業や新規就農者など、新たな農地の受け手を呼び込み、確保していく。

(2) 新たな農地の受け手となる新規就農者が農業を始めやすく、継続的に農業経営を行えるような営農環境を整えるとともに、今後の地域農業を担っていく中心経営体となるような人材の育成を地域ぐるみで行っていく。

(3) 農地の受け手へ集積を行いながら、今後、就農が見込まれる新たな担い手にも農地が引き継げるよう、地域で連携した農地集積を進めて行く。また、面的な農地の確保が困難な場合でも、可能な限り分散した農地の集積を行っていく。

(4) 地域の農業者でまとまって同じ作物を栽培し、協力して栽培から出荷までの一連の作業を行うことで、労働力の確保と負担軽減を図り、地域での営農活動を維持していく。

(5) 地域の営農環境に合った作物を地域一体となって栽培することにより、地域農業の特色を打ち出し、地域の魅力を発信していく。

(6) 農業委員や農地利用最適化推進委員と連携し、地域で農地情報を共有することで、農地の出し手と受け手を明確化しながら、農地銀行制度や農地中間管理機構を活用することで、農地の集積を促進する。

(7) 獣害被害が拡大し、農業収入の減少や営農意欲の低下が懸念されることから、管理捕獲の取組みと併せて、捕獲機材を導入するとともに、既存の獣害防止柵の整備や地域での管理体制を整える必要がある。

今後の地域の中心となる経営

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向	
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積
認農	農業者A	果樹、野菜	0.4 ha	果樹、野菜	0.4 ha
	農業者B	野菜、水稲	0.4 ha	野菜、水稲	0.4 ha
	農業者C	野菜、水稲	0.2 ha	野菜、水稲	0.2 ha
計	3人		1 ha		1 ha